

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立鍋島中学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

### ■ 調査の対象学年

中学校3年生

### ■ 調査の内容

#### （1） 教科に関する調査

今年度は〔国語、数学、英語〕の教科で実施

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### （2） 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
・国語、数学、英語への興味・関心、学習方法、読書時間や勉強時間などの学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況などに関する調査

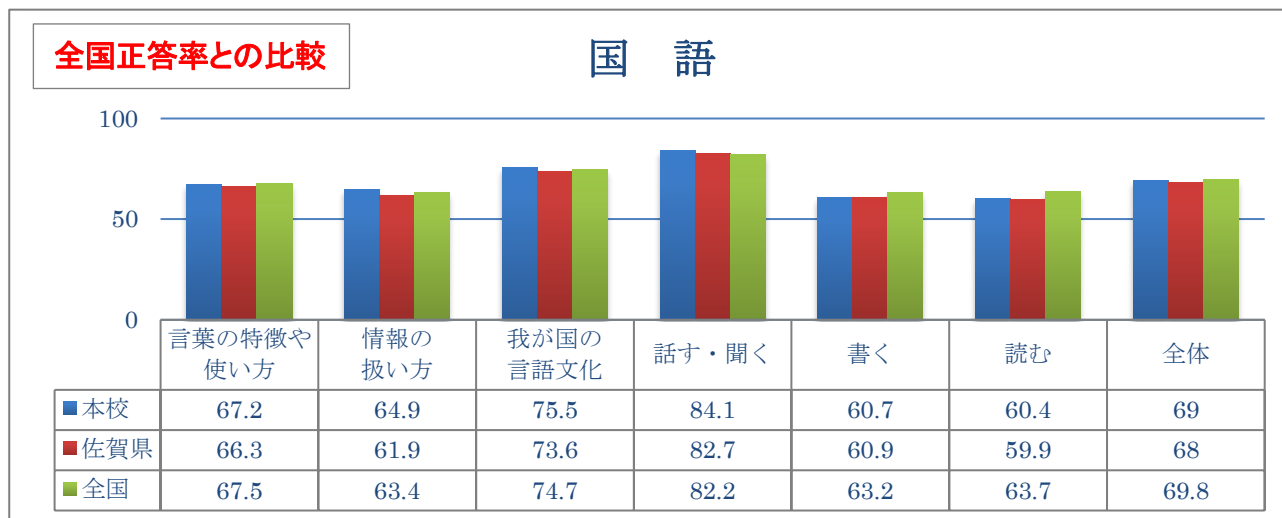
### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は中学3年生が対象であり、教科は国語と数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果



全体では、全国平均よりも0.8ポイント低く、佐賀県平均よりも1ポイント高い結果でした。「情報の扱い方」「我が国の言語文化」「話す・聞く」は、全国平均正答率を上回っています。しかし、「記述式」や「短答式」の問題において、無解答率が全国平均よりも高くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国の平均正答率を上回りました。国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域において土台となるものであり、日頃の学習の積み重ねにより力が定着したと思われる。特に、「情報と情報との関係」に関する問題、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題において、成果が見られました。

一方、記述式問題における無解答率の高さが課題です。特に、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」問題における無解答率は、全国平均を6.2ポイント上回りました。現代語で書かれた作品と古典作品を比較してどこが工夫されているかを見つけて書くことが難しかったようです。文章の構成や展開、表現の効果などに着目するために、古典と複数の現代語訳を読み比べ、比較したり関連付けたりしながら、古典の楽しみ方を見出すような学習活動が必要であると考えています。

#### (3) 学力向上のための取組み

##### 【学校では】

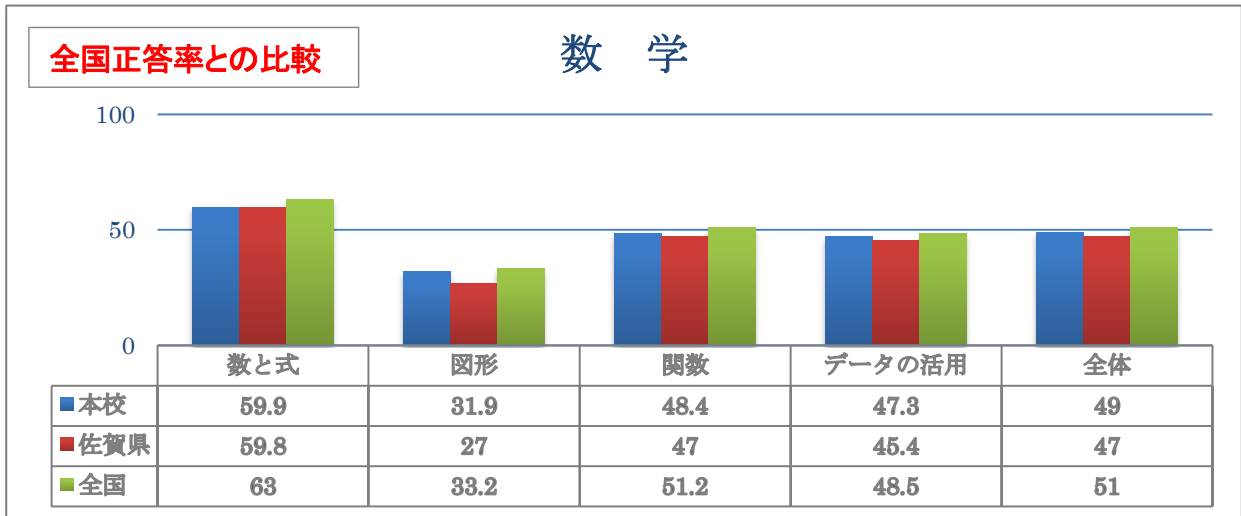
- 「鍋中学び合い」の授業を通し、他者との関わりの中で、自分の考えを筋道立てて自分の言葉で伝える学習へとつなげていきます。
- 理解したことを文章でまとめたり、自分の意見を文章にして発表したり、理解と表現の授業を意識して行っていきます。
- 語彙力をつけるために、言葉の言い換えや、漢字を文脈の中で使う機会を増やしていきます。

##### 【ご家庭では】

- 自分の感想や考えを、自分の言葉で答えられるよう、問いかけや言葉かけをお願いします。
- 日常生活の中で読書に親しみ、新たな語句・語彙を使うような言葉かけをお願いします。

## 2 数学

### (1) 結果



全体では、全国平均よりも2ポイント低く、佐賀県平均よりも2ポイント高い結果でした。「データの活用」は、全国平均正答率とほぼ同等の結果でした。しかし、「記述式」の問題において、無解答率が全国平均よりも高くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査で、「思考・判断・表現」が全国の平均正答率とほぼ同等でした。知識・技能を活用し、課題解決に向けて考え実践できていると思われます。特に、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明」する問題において、成果が見られました。

一方、記述式問題における無解答率の高さが課題です。記述式による問題全てにおいて、無解答率が、全国平均を4ポイント程度上回りました。特に、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題では、問題文に書かれた内容をグラフや式を用いて考えることが難しかったようです。数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフのどれをどのように用いたかについて数学的に説明できる活動を充実させていくことが必要であると考えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

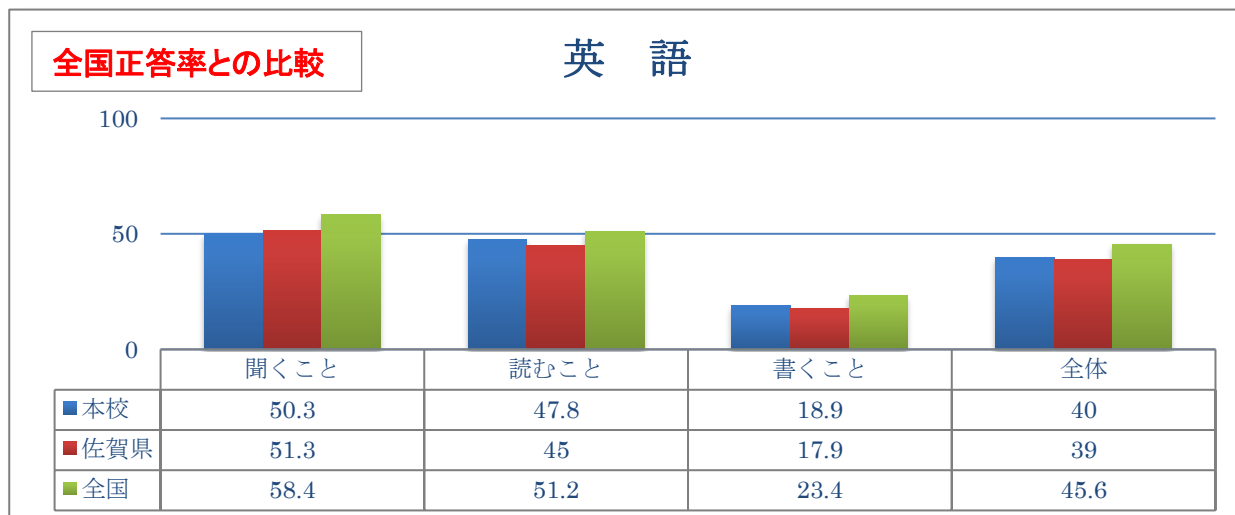
- 授業において、「鍋中学び合い」を取り入れ、他者に自分の考えを筋道立てて説明する機会を設けます。
- 「めあて」と「振り返り」を意識させ、毎時間の振り返りシートの記入を通して、自分の学習を見つめさせます。
- 単元の中で、小テストを実施し、こまめに自分の力を再確認する機会を設けます。

#### 【ご家庭では】

- 授業で習ったことをその日のうちに1問～2問でいいので、ワーク等で復習するように言葉かけをお願いします。
- テスト終了後は、必ず解き直しをして、振り返りをするように言葉かけをお願いします。

### 3 英語

#### (1) 結果



全体では、全国平均よりも5.6ポイント低く、佐賀県平均よりも1ポイント高い結果でした。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全てにおいて、全国平均正答率よりも低い結果でした。また、無解答率が、ほとんどの問題で全国平均よりも高くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」を問う問題の一部において、全国の平均正答率とほぼ同等の結果が見られました。特に、「ある状況を描写する英文を読み、適するグラフを選択する」問題においては、全国の平均正答率を0.4ポイント上回り、学習の成果が見られました。

一方、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」すべての領域において、全国の平均正答率よりも5ポイント以上、下回っています。特に、「聞くこと」において顕著な課題が見られました。「情報を正確に聞き取る」問題、「説明の要点を捉える」問題において困難が見られました。何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるような学習が必要であると考えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 「鍋中学び合い」の授業を通し、自分の考えを、英語を用いて伝え合う学習を行っていきます。
- 単語や基本文の反復練習を行い、表現能力を育成するための基礎的・基本的な能力の定着を図ります。
- 学習したことをアウトプットする場を設定し、英語による表現能力及び活用能力の育成を図っていきます。

##### 【ご家庭では】

- 単語や基本文の反復練習を、毎日目標を決めて、継続して行うようお声掛けをお願いします。
- 新聞やニュースで海外の報道がされたときは、外国の文化や出来事に興味をもつよう、親子での会話をお願いします。



## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査



### (1) 結果

\*「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した生徒の割合。

#### 《生活習慣について》

調査の項目	本校%	県%	全国%
朝食を毎日食べていますか。	85.9	80.1	78.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	40.0	37.0	34.7
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	62.9	59.8	54.8

「朝食・起床・就寝」については、「当てはまる」と答えた生徒が全国の平均を上回り、正しい生活習慣が身についている人が多いことが分かります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。良い生活のリズムを習慣化していきましょう。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	県%	全国%
平日3時間以上勉強している。	5.9	5.2	10.3
平日2～3時間勉強している。	16.1	17.5	23.4
平日1～2時間勉強している。	29.3	32.5	32.1
平日30分～1時間勉強している。	21.0	24.0	18.0
平日30分より少ない。	15.1	13.2	9.9
全くしない	12.7	7.4	6.0
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	13.2	11.7	15.3
平日1日当たり1時間以上読書をしている。	16.5	15.5	13.8

家庭学習については、勉強する時間が、全国平均よりも短いことが分かりました。「平日1～2時間勉強している」生徒が最も多く、3割を占めています。「全くしない」生徒も12.7%いました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて、家庭学習が習慣化するようにしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて学習するよう生徒に指導していきます。

#### 《人との関わりのこと》

調査の項目	本校%	県%	全国%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	16.6	23.3	19.6
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	38.0	36.2	34.3
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表をしていましたか。	25.4	19.5	21.9

生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることについては、県・全国平均を上回っており、「鍋中学び合い」でお互いを高め合う学習ができていると思われます。授業において、受け身ではなく、自ら学ぶという意識を持ち学習に取り組む活動を取り入れていきます。

## 《自分自身のこと》

調査の項目	本校%	県%	全国%
自分には、よいところがあると思いますか。	37.6	34.3	37.2
将来の夢や目標を持っていますか。	37.1	39.7	39.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	44.9	41.9	38.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	83.4	84.3	80.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	80.5	75.9	71.7
学校に行くのは楽しいと思いますか。	49.8	43.4	43.3

「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」について、全国平均を大きく上回り、他者との関わりの中でよりよく生きようとする心優しき生徒の姿が見えます。また、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒が約半数、「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒も加えると、89.8%の生徒が、楽しく学校に通うことができているようです。

### (2) 鍋島中生徒の生活習慣や学習習慣に関する調査結果と、正答率の関係

- 「新聞をほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と答えた生徒の正答率が高い。
- 「朝食を毎日食べている」と答えた生徒の正答率が高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた生徒の正答率が高い。
- 「土曜日曜など学校が休みの日に勉強をしない」と答えた生徒の正答率が低い。
- 「将来の夢や目標を持っていない」と答えた生徒の正答率が低い。
- 「読書が好きではない」と答えた生徒の正答率が低い。

### (3) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 「鍋中学び合い」による学習をさらに深化させ、ともに学び、ともに伸びる学習集団づくりに努めます。
- 家庭学習においては、鍋島中学校区の小中連携で作成した「家庭学習のパンフレット」を活用し、保護者との連携を図りながら家庭学習の充実に取り組みます。

#### 【ご家庭では】

- 家庭学習が定着するよう、本校や県が作成した「家庭学習のパンフレット」を活用されながらご支援をお願いします。
- ゲームやSNSに時間を使いすぎないように、時間などについて、家庭での約束ごとを決めてください。





# 家庭学習の充実に向けて

開成小・鍋島小・鍋島中

学習を進めていく中で、鍋島中学校区の3校では、3つの玉を大切にしていきます

## がまん玉

やりたいことも  
がまんして親子で  
学習に向かおう

## みがき玉

苦手なことにも  
こつこつ取り組み、  
自分をみがこう

## みつけ玉

学習のおもしろさや  
自分の得意なことを  
見つけよう

### ■■ 家庭学習の進め方 ■■

- テレビを消して、静かなところで
- 毎日、決まった時間に決まった場所で
- 机の上は整理整頓、姿勢を良くして
- まずは宿題、すんだら自学（自主学习）

### ■■ 家庭学習時間のめやす ■■

学年 × 10 + 10 分

小1：20分	小6：70分
小2：30分	中1：80分
小3：40分	中2：90分
小4：50分	中3：100分
小5：60分	



中学校卒業時の子どもの姿を思い描きながら、小学校1年時より発達段階に応じた学習を家庭と学校が協力して進めていきましょう。鍋島中学校区3校では、義務教育9か年間を見通した教育を実践していきます。